

リトレッドタイヤ(更生タイヤ)を使ってみたい！

リトレッドタイヤは、新品タイヤが摩耗したら接地部に新しいゴムを貼り付けて再使用する、環境にやさしい「リユース」商品です。

新品タイヤが摩耗し、これからリトレッド製造するタイヤを「台タイヤ」と呼びます。

摩耗したタイヤがどんなタイヤでもリトレッドできるわけではなく「**一定基準**」に合格した「台タイヤ」がリトレッド製造することができます。では、この「**一定基準**」を見てみましょう。

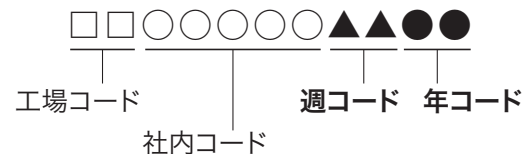
1. 新品タイヤ製造後、5年以内のタイヤであること

新品タイヤ製造から6年以上経過したタイヤはリトレッド製造には不向きです。

新品タイヤで6年、リトレッドで5年となりますと「10年」という目安を超えてしまいます。

■タイヤの製造符号について

タイヤのサイド部に、アルファベットと数字の組み合わせで11桁の刻印があり、これが製造符号(シリアルナンバー)です。

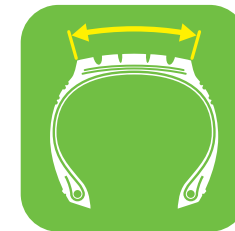


〈週年コード例〉 5122
↓
2022年51週
↓
2022年12月製造

注 記

台タイヤの年限、また台タイヤの判定基準は、リトレッド製造会社で差異がある場合もありますので、詳細はリトレッド製造会社へお問い合わせください。

2. タイヤ現品での判定ポイント



トレッド部(接地部)

判定箇所	溝の残り具合
判定基準	溝が全周に亘り、残っていること(溝が3mm以上あればベスト)

- 〈補 足〉
- ・ 摩耗が進んだタイヤは、リトレッドできません。
 - ・ 溝底まで摩耗が進んでいるとバフ(旧ゴムを削り取る作業)が困難になります。



2. タイヤ現品での判定ポイント



トレッド部(接地部)

判定箇所	貫通傷
判定基準	パンク修理跡が無いこと

- 〈補 足〉
- ・パンク修理されているタイヤは、リトレッドできません。
 - ・非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行した可能性があり、タイヤの骨格のスティールコードが損傷している可能性が高いからです。



判定箇所	スティールベルト
判定基準	・露出していないこと 〈露出していた場合〉 ・50mm平方以内であること ・切断していないこと

- 〈補 足〉
- ・スティールベルトが断しているものは、リトレッドできません。



2. タイヤ現品での判定ポイント



トレッド部(接地部)

判定箇所	外傷、カット傷
判定基準	基準より大きな外傷、カット傷が無いこと

- 〈補 足〉 ・ 微小な傷は、スカイブ作業で削り取ることができますが、スチールコードの錆が広がっているものはタイヤゴムとの接着力が低下するためリトレッドできません。



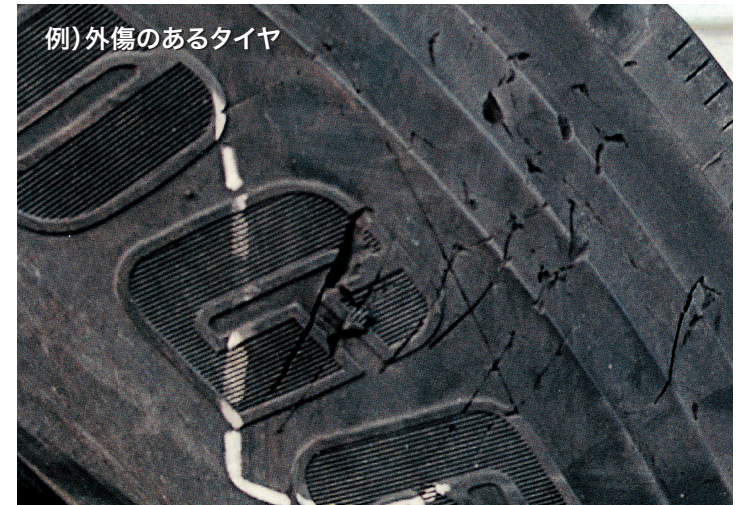
2. タイヤ現品での判定ポイント



タイヤサイド部

判定箇所	外傷
判定基準	カーカスに達していないこと

〈補 足〉 ・ リトレッドタイヤとして使用すると、スチールコードが切れる可能性があるためリトレッドできません。

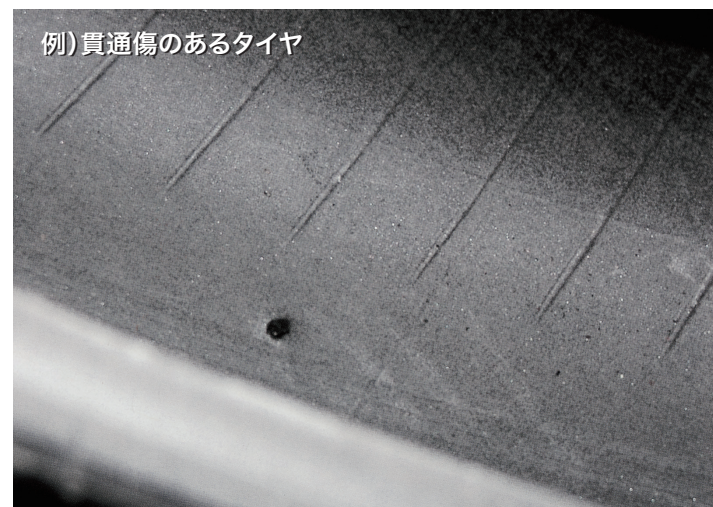


2. タイヤ現品での判定ポイント



タイヤ内面

判定箇所	貫通傷、パンク修理跡
判定基準	貫通傷、パンク修理跡が無いこと

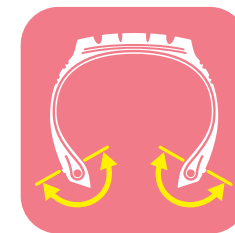


判定箇所	しわ、引きずり跡
判定基準	しわ、引きずり跡が無いこと



- 〈補 足〉 ・ 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行した可能性があり、タイヤの骨格のスティールコードが損傷している可能性が高いためリトレッドできません。

2. タイヤ現品での判定ポイント



タイヤビード部

判定箇所	内部構造
判定基準	ビード部内部構造に傷など無いこと



判定箇所	裏側
判定基準	タイヤ入れ替え時に付いたレバー等による損傷が無いこと

